

# 現下の感染拡大を踏まえた患者療養の考え方について（案）

- ワクチン接種の進展に伴う患者像の変化等の中で、患者が急増している地域における対応として、患者療養について以下の考え方を可能とする。

## これまで

### 入院

- 重症化リスクの高い者を中心に幅広く、原則入院で対応

### 宿泊

- 無症状・軽症患者は原則として宿泊療養施設で療養・健康管理

### 自宅

- 無症状・軽症患者のうち、やむを得ず宿泊療養を行えない者を自宅療養で対応

## 今後の対応

- 入院は重症患者や特に重症化リスクの高い者に重点化
- 自宅・宿泊療養者の急変に備え、空床を確保

- 入院患者以外は自宅療養を基本とし、家庭内感染のおそれや自宅療養ができない事情等がある場合に宿泊療養を活用
- 健康管理体制を強化した宿泊療養施設を増強  
(宿泊療養者への往診・オンライン診療等の医療支援体制の確保※など)
- 自宅療養者への健康観察を更に強化し、症状悪化の際は速やかに入院できる体制を確保  
(パルスオキシメーターの配布や自宅療養者への往診・オンライン診療等の医療支援体制の確保※、入院への移行時の搬送手段の整備)

※ 自宅・宿泊療養者に対する往診等の診療報酬上の特例的な評価の拡充  
(自宅・宿泊療養者に往診・訪問診療を実施した場合に、1日当たり1回、救急医療管理加算950点を加算(7/30~))

- HER-SYSを改善し導入した、スマホでの健康管理・IVR(自動音声応答システム)を活用した自動電話等の機能を活用した健康管理の推進

\* 7/1より家族全員の健康管理をスマホで入力可能とする等の機能を追加。

- 重症化を防ぐことが医療提供体制を守る観点から重要。政府が確保した中和抗体薬について、医療現場で重症化リスクのある方に活用するモデル的な取組を実施。